

第3回姫路市国際戦略 検討懇話会 会議資料

2026.8.21

国際戦略室

Taiyuan

第3回 姫路市国際戦略検討懇話会 出席者名簿

	氏 名 (50音順、敬称略)	職名等	備 考
座長	高坂 誠	兵庫県立大学学長	
	手島 恵美	J E T R O神戸所長	
	中農 一也	姫路地区専門学校協議会会長	
	福吉 マルタ	姫路市外国人相談センター相談員	
	夫馬 賢治	(株)ニューラルCEO、信州大学特任教授	

姫路市国際戦略検討懇話会スケジュール

1

2026.3.6(金)

- ・ 委員紹介及び座長の選任
- ・ 懇話会趣旨・スケジュール案
- ・ 姫路市国際戦略の策定について
- ・ 姫路市の国際化の現状について

2

2026.6.30(火)

- ・ 姫路市の国際化の現状について
 - ▶ 国際化に関する市民アンケート調査結果の概要
 - ▶ 人手不足の状況および外国人材の雇用に関する調査の概要
- ・ 姫路市国際戦略骨子案について

3

2026.8.21(金)

- ・ 姫路市国際戦略素案について

4

2026.10

- ・ 姫路市国際戦略パブリックコメント案について

5

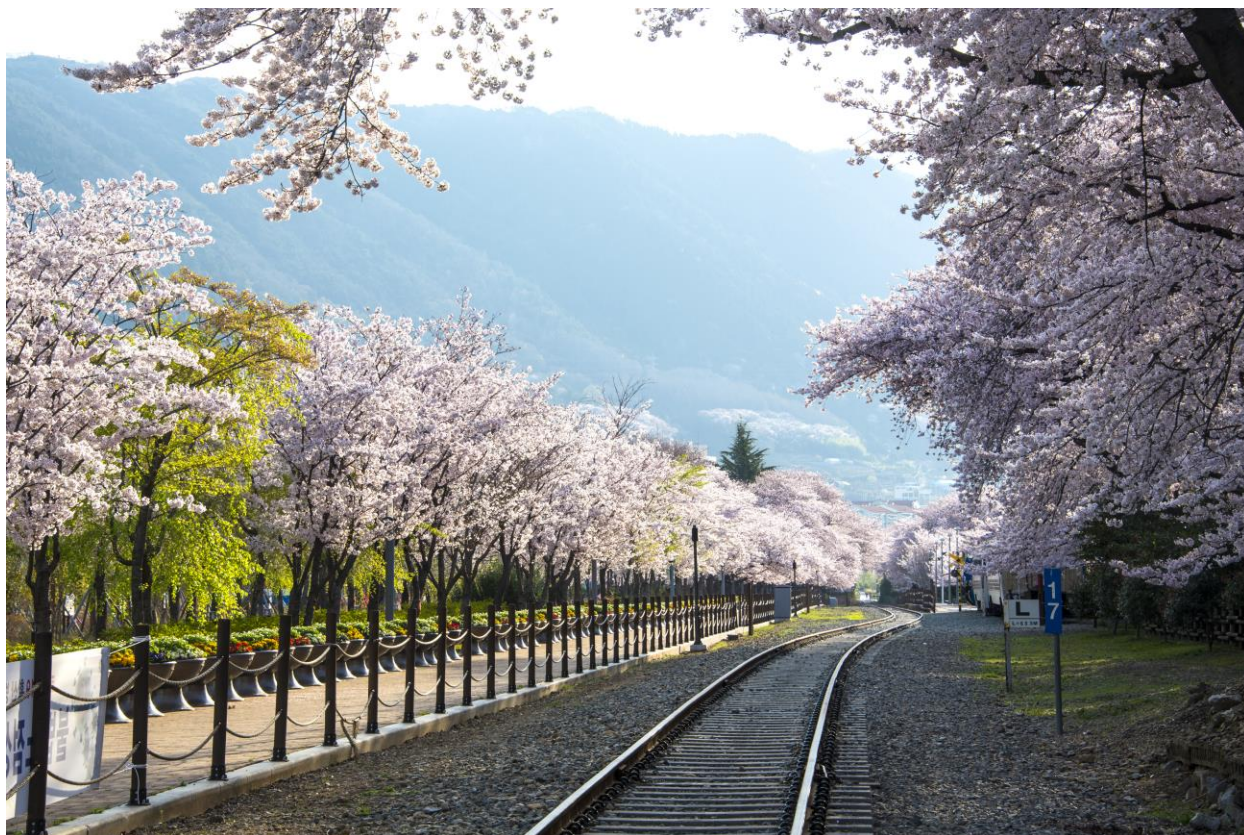
2027.2

- ・ 姫路市国際戦略案のパブコメ募集結果について
- ・ 姫路市国際戦略案について

※ 開催回数、開催時期等は、会議の進捗等により変更となる場合があります。

次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 協議事項
 - 姫路市国際戦略素案について
 - ▶ 施策について
 - ▶ 指標（KPI）について
- 4 その他
- 5 閉会



姫路市国際戦略素案について

背景

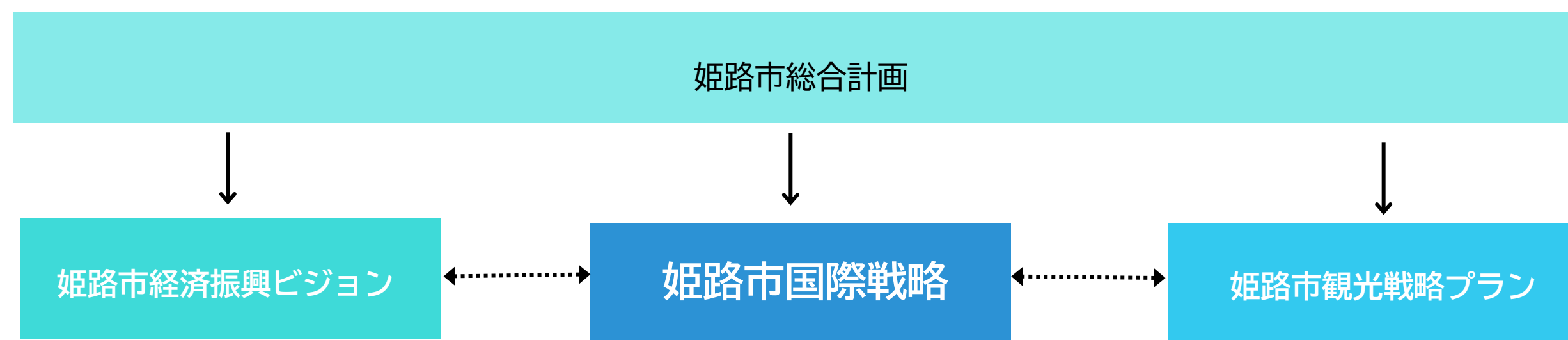
- 本戦略策定の背景には、国際社会及び国内において急速に進む環境の変化があります。
 1. 国際社会では人道危機や地球温暖化、感染症の拡大といった地球規模課題が深刻化し、基礎自治体としての対応が求められています。
 2. 国内においては、少子化が急速に進行し、本市においては大都市圏への若者の流出も重なって地域社会の担い手不足が大きな課題となっています。
 3. こうした状況と並行して、国の外国人受入拡大などに伴い、在住・訪日外国人の増加や国籍の多様化が進んでいます。
- 多様なルーツを持つ人が、異なる価値観を尊重しながら、協働して地域の活性化に取り組むことができる環境づくりを進めていくことが、喫緊の課題です。
- このような社会構造の変化に柔軟に対応し、本市の持続的な発展を図るべく、国際的な視点から総合的、戦略的な取組が求められます。

目的

- ・国内外及び本市における社会経済情勢の変化を踏まえ、本市における国際化をより戦略的に展開していくため、今後取り組む国際化推進施策の基本となる方針として「姫路市国際戦略」を策定します。

位置付け

- ・姫路市国際戦略は、最上位の計画である「姫路市総合計画」の下、「姫路市国際化推進プラン2022～2026」を本戦略に取り込むとともに、「姫路市経済振興ビジョン」や「姫路市観光戦略プラン」との整合性を図りながら、今後取り組む本市の国際化推進施策の基本となる方針として位置付けるものです。

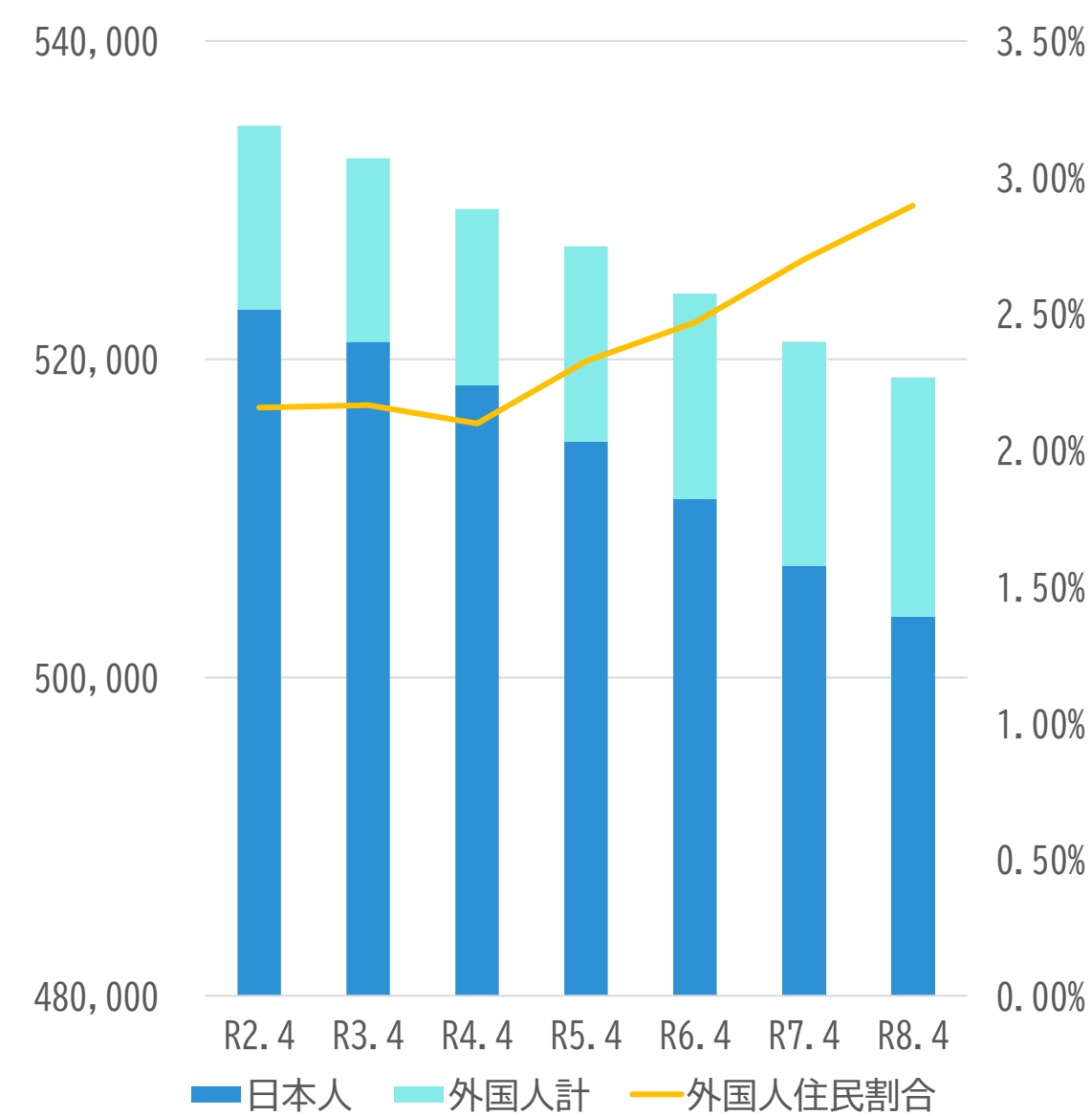


計画期間

- ・令和9年（2027年）4月1日から令和14年（2032年）3月31日までの5年間

①姫路市の人口動態と外国人在住者の状況

- 市内総人口は減少している中、外国人在住者数は5年間で2割増加。人口比も急速に増加
- 従来最多であった韓国・朝鮮を、令和6年度にベトナムが上回り、国籍別構成に変化
- ネパール、インドネシア、ミャンマーなど東南アジア諸国からの在住者の増加が顕著



国 籍	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1	R5.4.1	R6.4.1	R7.4.1	R8.4.1
ベトナム	3,648 (2)	3,843 (2)	3,709 (2)	4,065 (2)	4,464 (1)	4,782 (1)	5,018 (1)
韓国・朝鮮	4,694 (1)	4,572 (1)	4,447 (1)	4,377 (1)	4,275 (2)	4,202 (2)	4,077 (2)
中国	1,461 (3)	1,361 (3)	1,233 (3)	1,225 (3)	1,250 (3)	1,317 (3)	1,359 (3)
インドネシア	216 (5)	206 (5)	173 (6)	357 (6)	471 (6)	667 (5)	989 (4)
ネパール	79 (9)	142 (6)	179 (5)	510 (5)	544 (5)	771 (4)	978 (5)
フィリピン	552 (4)	539 (4)	530 (4)	592 (4)	620 (4)	664 (6)	734 (6)
ミャンマー	74 (11)	85 (9)	68 (11)	194 (7)	302 (7)	469 (7)	507 (7)
バングラデシュ	18 (19)	43 (14)	25 (14)	114 (8)	81 (11)	122 (9)	212 (8)
ブラジル	105 (6)	84 (10)	86 (8)	85 (11)	96 (9)	151 (8)	140 (9)
スリランカ	25 (15)	24 (15)	19 (20)	43 (15)	67 (14)	108 (11)	131 (10)
米国	97 (7)	93 (7)	93 (7)	99 (9)	122 (8)	114 (10)	119 (11)
タイ	92 (8)	91 (8)	78 (9)	91 (10)	94 (10)	107 (12)	116 (12)
その他	468	454	464	506	547	590	646
外国人計	11,529	11,537	11,104	12,258	12,933	14,064	15,026
総人口	534,648	532,637	529,450	527,088	524,149	521,074	518,853

※出典：姫路市・播磨圏域連携中枢都市圏オープンデータカタログサイト

※（ ）内の数字は、各年での順位

②姫路市の国際化の現状について（市民及び企業アンケートの概要）

国際化に関する市民アンケート調査結果

1. 調査目的

姫路市の国際化の状況及び課題の把握を行う。

2. 調査対象

満18才以上の日本人市民から無作為抽出した3,000人
市内に居住する満18歳以上の外国人市民 約1,290人

3. 調査期間

2025年12月～2026年1月

4. 結果概要

【日本人】

- ・「多くの外国人が暮らし、働いている」ことを望む割合は11.2%で、現状認識の51.6%と大きな差がある。また、地域で外国人と実際にトラブルがあると回答した割合は8.2%と低い一方で、外国人が増えることについて、65.7%が「習慣や文化の違いによるトラブル」、45.0%が「治安の悪化」を懸念しており、市民の多文化理解を促進する施策の充実が求められる。
- ・国際交流ボランティア、イベントに関して、若年層で経験者の割合と参加意欲が高い。若年層に向けた情報発信の強化が重要である。
- ・在住外国人との交流については、「文化や習慣を教えたい・教えて欲しい」が最も高い（36.3%）。また、国際理解増進には、「子どもへの国際理解教育の充実」「外国人観光客の受入体制整備や情報発信による観光振興」が必要との意見が多く、文化体験機会の充実や国際理解教育、インバウンド誘致促進に重点的に取り組んでいく必要がある。

【外国人】

- ・60.2%が「これからも姫路市に住みたい」、27.5%が「日本の姫路市以外の場所に引っ越す」と回答。4.8%の「姫路市に住みたくない」と回答した人の理由は「働きにくい」「住みにくい」が合わせて約61%であり、就労や生活サポート体制の充実を進める必要がある。
- ・災害や健康保険、税・年金、日本語学習について、母国語による情報提供を望む声が多い。
- ・生活の情報は、主に職場や学校、メディア、友人から得ている。困った時の相談相手は、家族や仕事仲間、友人が多い。85.4%が姫路市外国人相談センターを認知しておらず、また73.7%が財団主催の日本語教室を認知していない。情報発信に工夫が必要である。

人手不足の状況および外国人材の雇用に関する調査

1. 調査目的

中小企業にとって人口減少に伴う労働力不足が大きな経営課題となっており、人手不足の状況や多様な人材の雇用状況、課題等の実態把握を行う。

2. 調査対象

姫路市内 3,135事業所

3. 調査期間

2024年8月28日～2024年9月13日

4. 結果概要

- ・57.3%の事業所が「人手が不足している」と回答。
- ・人手が不足している職種は、主には専門的・技術的職種や建設の職種、管理的職種（店長・工場長・施設長等）など。
- ・将来の人材確保に向けた中長期的な戦略を立案している企業は25.3%にとどまる。
- ・外国人材を雇用している事業所は17.5%であり、その理由として「日本人が採用できない（56.8%）」が最も高い。しかし、雇用後の評価では「真面目に一生懸命取り組む（62.6%）」や「人員を確保できた（61.9%）」という意見が上位を占め、貴重な戦力として高く評価されている。
- ・外国人雇用の課題として「コミュニケーションが取りづらい（41.7%）」や「社内の受入体制の未整備（34.0%）」といった意見の割合が高い。行政に求める支援策としては「日本語教育支援（44.5%）」や「雇用にかかる手続きの簡素化（32.3%）」、「住居確保の支援（26.9%）」の割合が高い。今後、労働力不足がより一層深刻化することが予想される中、外国人労働者の受入を拡大するためには、行政側は生活・就労支援策の充実を進め、事業所側は受入体制の整備や多文化共生の意識向上に取り組むことが不可欠である。

③SWOT分析による現状把握

Strengths : 強み ・圧倒的な知名度を誇る地域資源の存在（世界遺産・国宝「姫路城」） ・独自の国際交流の基盤（海外姉妹都市・姉妹城等との交流） ・ものづくり産業の集積（高度なものづくり産業、地場産業） ・世界平和を強く願う取組（「不戦の城」姫路城、慰霊塔など） ・優れた交通アクセス（山陽新幹線、山陽自動車道など） ・地域コミュニティ力の強さ ・芸術文化の国内外への発信力の高さ ・利便性の高い大規模コンベンション施設やスポーツ施設の存在		Weaknesses : 弱み ・「通過型観光」からの脱却の遅れ ・MICE機能・宿泊施設の不足 ・大都市圏への若手人材の流出 ・多文化共生社会への理解不足 ・限定的な都市イメージと姫路の魅力を世界に伝える発信力の不足
Opportunities : 機会 ・歴史・文化体験への世界的ニーズの高まり ・大阪関西万博のレガシーの活用（グランドピアノ、アクリエひめじ、ひめじスーパーアリーナ） ・国の外国人材受入政策の活用 ・SDGsやGXへの世界的な潮流 ・デジタル技術の進展	O T	Threats : 脅威 ・国際情勢の不安定化とパンデミックリスク ・激化する国内外の都市間競争 ・国内の人口構造の変化 ・大規模自然災害の発生リスク

③SWOT分析による現状把握

S

Strengths：強み

- 圧倒的な知名度を誇る地域資源の存在
 - ・ 世界遺産・国宝「姫路城」という、世界的に認知度が高く、比類のない集客力を持つ観光資源を有する。これはインバウンド誘客や都市ブランド力の向上の強力な核となる。
- 独自の国際交流の基盤
 - ・ 姉妹都市・友好都市提携を締結している海外都市との長年にわたる交流実績があり、市民レベルでの交流基盤が構築されている。
 - ・ 姫路城と海外の城郭等との姉妹城提携や観光友好交流協定は、他都市にはない独自の国際交流の切り口である。
- ものづくり産業の集積
 - ・ 播磨臨海工業地帯に、ものづくりの分野で高い技術力を持つ大企業や中小企業に加えて、地域に根差して発展してきた地場産業が集積しており、市内企業の海外ビジネス展開や海外企業誘致の基盤が備わっている。
- 世界平和を強く願う取組
 - ・ 「不戦の城」と称される姫路城や太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔などを有し、戦災からの復興を遂げ、平和都市宣言、非核平和都市宣言を行っている取組は、「平和都市」としてのメッセージを強く発信する力を持つ。
- 優れた交通アクセス
 - ・ 山陽新幹線、ＪＲ山陽本線、播但線、姫新線が乗り入れるターミナル（ＪＲ姫路駅）を有し、姫路バイパスや山陽自動車道など、市域を超えて各都市と連結する広域幹線道路網が整備され、関西国際空港・伊丹空港・神戸空港からもアクセスしやすい地理的優位性を持つ。
- 地域コミュニティ力の強さ
 - ・ 自治会組織率が全国的にも高く、行政と地域の円滑な連携が可能である。
- 芸術文化の発信力の高さ
 - ・ 「音楽のまち・ひめじ」として文化振興、ル・ポン、交響詩ひめじコンクール、ベーゼンドルファ・グランドピアノの活用、姫路バイオリンコンクール、市立美術館と海外美術館との連携の取組など、日本、姫路への関心を高める多彩な芸術文化イベントを展開している。
- 利便性の高い大規模コンベンション施設やスポーツ施設の存在
 - ・ 「鉄道駅に近接し、大規模な国際会議や展示会に対応できるコンベンション施設「アクリエひめじ」や大型スポーツ施設「ひめじスーパーアリーナ」（令和８年オープン）がある。

③SWOT分析による現状把握

W

Weaknesses : 弱み

- 「通過型観光」からの脱却の遅れ
 - ・ インバウンド観光客の多くが姫路城のみを目的地としており、市内での滞在時間が短く、観光消費額が伸び悩んでいる。
 - ・ 宿泊、夜観光につなげる夜の魅力不足や購買意欲を刺激する土産物の不足。
- MICE機能・宿泊施設の不足
 - ・ ハイレベルな要人接遇に対応できる高級ホテル等が不足しており、国家元首級が参加する国際会議や大規模MICE誘致の機会を逸失している。
- 大都市圏への若手人材の流出
 - ・ 大学等を卒業した若者やグローバル人材が、より魅力的な雇用機会や生活環境 を求めて京阪神地区や首都圏などへ流出している。
- 多文化共生社会への理解不足
 - ・ 外国人住民が増加傾向にあるが、医療、教育、住宅といった生活面での多言語対応やサポート体制が十分に行き届かず、外国人の定住につながりにくい。
- 限定的な都市イメージと姫路の魅力を世界に伝える発信力の不足
 - ・ 「姫路城のまち」という強力なイメージがある一方で、ものづくり産業都市としての側面や、豊かな自然、城下町として育まれた歴史や文化といった多様な姫路の魅力が国内外に十分に伝わっていない。

③SWOT分析による現状把握

0

Opportunities：機会

- 歴史・文化体験への世界的ニーズの高まり
 - ・ 円安を追い風に、訪日旅行への関心が世界的に高まっている。特に「コト消費」へのシフトが進んでおり、姫路城や書寫山圓教寺、地域の祭り、伝統工芸といった日本の歴史・文化資源を活用した体験観光へのニーズが高まっている。
- 大阪関西万博のレガシーの活用
 - ・ オーストリア館に展示されたグランドピアノを活かした「アクリエひめじ」での音楽イベントの開催により芸術文化面での姫路の魅力を世界に発信できる。
 - ・ 「アクリエひめじ」、「ひめじスーパーアリーナ」は大阪・関西万博で高まった日本や関西への関心を受け止め、国際的なイベントを誘致する最高のタイミングとなる。
- 国の外国人材受入政策の活用
 - ・ 民間企業における外国人材活用への機運が高まり、国の外国人材の受入施策や制度を積極的に活用した事業を展開できる。
- SDGsやGXへの世界的な潮流
 - ・ 国際社会において気候変動対策や持続可能な社会の実現に向けた取組への関心が高まり、都市ブランド力を向上させる機会となる。
- デジタル技術の進展
 - ・ 越境ECプラットフォームの普及やSNS等のデジタルマーケティング手法の進化に加え、生成AIの進歩が著しい。これにより、市内の中小企業は、海外市場での販路拡大を図れるだけでなく、生成AIの活用により生産性向上や新たな事業創出につなげる機会が増えている。

③SWOT分析による現状把握

T

Threats：脅威

- 国際情勢の不安定化とパンデミックリスク
 - ・ 国際紛争、テロ、新たな感染症の発生は、国際社会において人やモノの移動を停滞させ、インバウンド観光やサプライチェーン、国際交流事業に深刻な打撃を与えるリスクを常時内包している。
- 激化する国内外の都市間競争
 - ・ 近隣の京都・大阪・神戸はもとより、国内外の強力なライバル都市との間で、インバウンド観光客やMICE、優良企業の誘致を巡る競争が激化している。
- 国内の人口構造の変化
 - ・ 日本全体の人口減少と少子高齢化の進行は、労働力人口の減少を招き、地域経済の持続的な成長を阻害している。さらに、人口減少による地域コミュニティの弱体化が急速に進んでいる。
- 大規模自然災害の発生リスク
 - ・ 南海トラフ巨大地震などの大規模災害が発生した場合、都市機能が麻痺し、人的・物的被害はもちろん、海外とのサプライチェーンが崩壊し、確立してきた国際的な評価が大きく損なわれる可能性がある。

世界とつながる「Himeji of Japan」へ

グローバル社会を担う人材の育成と多文化共生をより一層推進するとともに、世界との連携を強化しながら本市の新たな価値を創出することで、世界から選ばれ、市民が誇りを持って暮らせる国際都市・姫路の実現を目指す。

- I. 国際的な意識と広い視野を持ち、姫路の未来を拓く人材の育成
- II. 多様性と包摂性に富んだ暮らしやすい多文化共生社会の構築
- III. 国際交流の推進と世界における都市ブランド力の向上

施策体系図（案）

基本目標	基本方針	K P I	7つの戦略		施策
世界とつながる「Himeji of Japan」へ	I 国際的な意識と広い視野を持ち、姫路の未来を拓く人材の育成	・ 海外留学者数 ・ 市内外国人留学生数	1	地域社会のグローバル化に対応する力の育成	・ 国際コミュニケーション力の育成 ・ グローバルな視野で地域課題に取り組む人材の育成 ・ グローバルなキャリア観の育成 ・ グローバル化する地域社会で活躍する人材の育成 ・ 海外留学の促進
	II 多様性と包摂性に富んだ暮らしやすい多文化共生社会の構築	・ 「親しくしている外国人がいる」と答えた日本人の割合 ・ 「これからも姫路市に住みたい」と答えた外国人の割合	2	次世代のグローバルマインドの醸成	・ 若い世代における国際交流の推進 ・ 海外文化体験の充実 ・ 国際理解教育の推進 ・ グローバル社会における「ふるさと姫路」への愛着・誇りの醸成
	III 国際交流の推進と世界における都市ブランド力の向上	・ 外国人の姫路城登閣者数 ・ 姉妹都市等との交流事業数	3	多様なニーズに対応した生活基盤の整備	・ 外国人住民への情報提供の充実 ・ 相談体制の充実 ・ 日本語学習等の充実 ・ 外国人のこども・児童生徒の受入体制充実 ・ 夜間中学における学びの推進
			4	市民の多文化理解の促進と共生の地域づくり	・ 市民の国際理解の促進 ・ 身近な国際交流の機会の充実 ・ 外国人住民の地域参画の促進 ・ 外国人コミュニティのネットワークづくり促進 ・ 地域で暮らす外国人へのサポートの充実
			5	観光・文化・MICEによる都市魅力の発信	・ 多角的な魅力発信によるブランド力の向上 ・ 世界から選ばれるコンベンション都市の実現 ・ スポーツを通じた国際交流の推進 ・ インバウンド誘致促進
			6	姫路経済のグローバル化と産業活力の創出	・ 企業の海外展開の促進 ・ 海外企業の誘致 ・ 世界水準の産業ブランドの確立 ・ 産官学連携による外国人材確保・定着の促進 ・ 高度外国人材の育成・確保
			7	国際親善の深化と平和への貢献	・ 海外姉妹都市・姉妹城等との交流推進 ・ 国際協力の推進 ・ 平和行政の推進

第1回&第2回検討懇話会における主な意見

各種 施策	・ 日常的に日本人と交流できる小規模なイベントを増やしてほしい。(戦略4-(3)(4)) ・ オンラインで日本語を学べる仕組みが必要である。(戦略3-(3)) ・ 外国人住民のコミュニティづくりには、母国語での仲間づくりの場や日本語学習の支援が非常に重要である。(戦略3-(3)、4-(4)) ・ 姫路市は医療機関が少ない。外国人の増加を見据え先進的な医療のあり方を考えるべき。福島の帰還困難区域はオンライン診療が発達している。 ・ 市は部局横断でコンセプトを共有し、歯車をきっちり合わせて施策に取り組むということを強く意識してほしい。
人材 確保	・ 日本人が集まらないまちは外国人にとっても魅力はない。日本企業・日本人をいかにして姫路に集めることができるかという戦略が基本になる。 ・ 海外市場開拓にはグローバル人材が不可欠である。外国人材の受入の拡大と、国内での人材育成を両輪で進めていかなければならない。 ・ 自治体が地元の企業や金融機関と一体感を持って受入体制を整える必要がある。(戦略6-(4)) (戦略6-(4)(5)、1-(2)) ・ 世界でも日本各地でも人材は奪い合いで、世界から選ばれるかどうかという時代である。選ばれるためには、実効性のある戦略を具体的に詰めていく必要がある。(戦略6-(4)(5)) ・ 大学に出向いて地元の企業と留学生が交流する機会を設けるなど、企業の魅力を留学生にダイレクトに伝える機会を増やすことが有効である。(戦略6-(4)) ・ 外国人留学生向けの合同企業説明会は良い取組である。県外の理系留学生への広報も今後有効であると考える。(戦略6-(4)) ・ 行政と企業が連携し、通年での採用活動を行うべきである。(戦略6-(4)) ・ 日本での就職を希望する留学生が、在留資格の条件が厳しいために母国に帰ってしまうケースもある。国としても柔軟な対応が必要。
定着 促進	・ 外国人は、姫路で1～2年働くと、より高い給料を求めて都市部に引っ越すことが多い。低い給料では人材が定着しない。(戦略6-(4)) ・ 在留資格更新の際の手数料の上限が大幅に引き上げられた。行政の積極的な支援を期待する。 ・ 外国人材の定着には職場環境が重要である。行政、企業、コミュニティ、個人がそれぞれの役割を果たし、総合的に対応していくことが不可欠である。 ・ 外国人労働者を雇用する事業主のための相談窓口が重要。オンラインでの外国人社員向けビジネス研修なども有効である。(戦略6-(4)) (戦略6-(4)) ・ ジェトロでは高度外国人雇用にかかる相談、異文化コミュニケーションの助言、キャリアパス制度の導入の支援なども行っているので活用してほしい。 ・ 定着率向上の鍵は「まちの魅力」と「コミュニティづくり」。市内で就職する留学生が増えるとコミュニティができて定着率が高くなる。(戦略4-(4)) ・ 市は「どういった人材に姫路市に来てほしいのか」ということをしっかりと検討してほしい。

第1回&第2回検討懇話会における主な意見

ブランド力の向上	産業	・ 人口減少対策という視点では、観光より産業の強化の方が重要である。SWOT分析の「弱み」の中で、特に産業面が弱い。(戦略6) ・ 国内外で「その産業と言えば姫路だ」と言われるブランドをつくりあげなければならない。「この分野で1番」があつて、はじめて国際都市の1番になれる。1つの分野で1番になれば、自ずと外国人が集まり、受入体制を整えることで、まちは発展していく。(戦略6-(3)) ・ 今の播磨臨海工業地帯の優位性に甘んじてはいけない。市と地元産業界が一丸となつて「この分野で生き残っていく」ことを考えなければならない。企業を積極的に誘致し、集積を進めていくべきである。(戦略6-(2)、6-(3)) ・ 「ひょうごメタルベルト」もブランドになっていない。北九州市はメタルの世界でも非常に注目されている。ぜひ北九州市の先進的な取組を姫路市に取り入れてほしい。(戦略6-(3)) ・ 姫路ブランドが世界に広く知れわたっているかということと、ものづくり産業といった基幹産業に高度外国人材が集まっているかということに注視していくことが重要である。(戦略6-(3)(4)(5)) ・ 「交流都市」から「定着型国際都市」に変わっていくことが不可欠である。
	姫路城	・ 世界遺産・姫路城は「強み」ではあるが、まだまだ認知されていない。「姫路市」は海外どころか国内でも印象が薄い。(戦略5-(1)) ・ 観光客にとって魅力があるまちは「回遊性のあるまち」である。姫路城を活かした景観・歴史のまちづくりに本気で取り組まないと、城から広げることは難しい。(戦略5-(1)) ・ 姫路城は「不戦の城」であり、平和というキーワードで広島市とつながるといったことも考えられる。(戦略5-(1)、7-(3))
	全般	・ 姫路城の次に、城以外のコンテンツ（なぜ姫路城の足元にはこのようなまちがあるのか、どのように工業都市が発展してきたのかといったストーリーなど）をSNSで発信していくことが重要である。(戦略5-(1)) ・ 姫路市には「地域再生のモデル都市」になってほしい。「平和都市モデル」であり「観光都市モデル」であり「産業都市モデル」でもある、多様なイメージ戦略を進めていくためには、産学官公金の連携が不可欠である。(戦略5-(1)、6-(3)、7-(3)) ・ 「観光都市として生きていく」「産業都市として生きていく」のであれば、それなりの投資をして整備しなければならない。(戦略5、6) ・ 食文化のPRも重要。姫路おでんは外国人にも好評である。(戦略5-(1))

基本方針Ⅰ
国際的な意識と広い視野を持ち、姫路の未来を拓く人材の育成

戦略1 地域社会のグローバル化に対応する力の育成

人口減少やグローバル化が進展する中、地域社会の持続的な発展を実現するために、未来を担う若者の、グローバルな視野や国際コミュニケーション力、多様な他者と協働し課題を解決する力等の育成が求められています。**ひめじグローバル人材育成コンソーシアム**を中心に、産官学をあげて「地域にしながら世界とつながり活躍する人材」を育成する取組を推進します。

施策

(1) 国際コミュニケーション力の育成

・学校における外国語教育の充実を図るほか、日本や姫路の魅力を英語で発表するプレゼンテーション講座や外国語観光ボランティアガイドとの交流事業等を実施し、グローバル化する地域社会において必要となる国際コミュニケーション力を育成します。

(2) グローバルな視野で地域課題に取り組む人材の育成

・海外の学校との探究学習やひめじ創生SDGsに基づくグローバル体験など、若者のグローバルな視野や多様な他者と協働する力を育む学習機会の充実を図り、幅広い視点で地域の課題解決に主体的に取り組む人材を育成します。

(3) グローバルなキャリア観の育成

・産官学連携の下、外国人留学生との協働学習や交流活動等を実施し、「地域にしながら世界とつながり活躍する」次世代のキャリア観を育成します。

(4) グローバル化する地域社会で活躍する人材の育成

・イベントや観光、教育、医療、災害支援等におけるボランティアの育成や、**地域コミュニティ活動**への外国人住民の参画促進等を通して、グローバル化する地域社会のさまざまな場面で活躍する人材を育成します。

(5) 海外留学の促進

・**海外姉妹都市等**との繋がりを通じたホームステイやオンライン交流などの国際交流機会を提供するほか、海外留学・海外研修参加者との交流イベント等を開催し、若者の海外留学への気運を醸成します。

基本方針Ⅰ
国際的な意識と広い視野を持ち、姫路の未来を拓く人材の育成

戦略2 次世代のグローバルマインドの醸成

地域で暮らす外国人住民が今後も増加していくことが予測される中、より若年段階からの国際的な交流活動及び国際理解教育の推進を図り、異文化・多様性の理解や、郷土への愛着と誇り、主体性・包摂性、国際貢献の精神を養います。

施策

(1) 若い世代における国際交流の推進

・国際交流フェスティバルでのボランティア活動や外国人留学生との協働によるイベント参画など、若者に向けた各種国際交流事業を推進し、異なる文化・価値観の壁を越えて関係を構築しようとする主体性を養います。

(2) 海外文化体験の充実

・若者が海外の文化や芸術、さまざまな民族の伝統に触れる機会の充実を図り、相互理解に基づく多文化共生の視点を育みます。

(3) 国際理解教育の推進

・若者を対象とした多文化共生ワークショップや海外姉妹都市等との交換交流の機会などを通して、互いの違い・共通点に関する理解や、多様な他者を受け入れる姿勢を育みます。

(4) グローバル社会における「ふるさと姫路」への愛着・誇りの醸成

・次世代を担うこども・若者が姫路の歴史・文化について学ぶ機会を提供し、郷土への愛着・誇りを醸成するとともに、他者を尊重する意識を育みます。

基本方針Ⅱ

多様性と包摂性に富んだ暮らしやすい多文化共生社会の構築

戦略３ 多様なニーズに対応した生活基盤の整備

姫路市では、1979年に開設された「**姫路定住促進センター**」において**ベトナムからの難民**を受け入れた経緯から、現在も多くのベトナム人が居住し、また近年では、ネパールやインドネシア、ミャンマーからの在住者が急増しています。外国人住民への情報提供等の充実をはじめ、学校や地域における外国人受入体制の充実を図り、外国人と日本人がともに暮らしやすいまちづくりを推進します。

施 策

(1) 外国人住民への情報提供の充実

・住居、健康福祉、教育、防災等、外国人住民が生活する上で必要な情報提供について、やさしい日本語化や多言語化を進めるほか、外国人向けの広報誌の発行や関係機関と連携した就労支援等を実施し、外国人が暮らしやすい環境づくりに取り組みます。

(2) 相談体制の充実

・姫路市外国人相談センターをはじめとする様々な機関における相談体制を充実し、日常生活の課題解決を支援します。

(3) 日本語学習等の充実

・外国人住民の母語・母文化の承継に配慮しつつ、日本語能力・年齢に応じた各種日本語教室の開催や、オンライン学習の導入、日本語学習支援ボランティアの養成、日本語教育関係者との連携強化を進めます。

(4) 外国人のこども・児童生徒の受入体制充実

・日本語指導支援員やバイリンガル支援員等の配置、教員の日本語指導力向上のための研修、通訳サポーターの派遣等をより一層充実することで、学校・就学前施設の受入体制を整え、学校生活等への円滑な適応を支援します。

(5) 夜間中学における学びの推進

・夜間中学において、さまざまな理由で義務教育を十分に受けることができなかった外国人と日本人がともに学ぶ機会の充実に取り組みます。

基本方針Ⅱ

多様性と包摂性に富んだ暮らしやすい多文化共生社会の構築

戦略4 市民の多文化理解の促進と共生の地域づくり

異なる背景を持つ人が対等な立場で、互いの文化や価値観、個性を尊重しつつ支え合う「多文化共生社会」の実現に向け、多様な国際交流の機会の充実や、外国人住民の地域コミュニティ活動への参画等を促進し、日本人と外国人が協働して地域の活性化に取り組むことができる環境づくりを進めます。

施策

(1) 市民の国際理解の促進

- ・国際交流や多文化共生、人権尊重をテーマとした講演会や講座等を開催し、異なる文化や価値観を尊重する意識を啓発します。

(2) 身近な国際交流の機会の充実

- ・子どもから大人まで楽しめる多様な国際交流イベントや外国人講師によるふれあい教室等を実施し、地域で暮らす外国人と日本人の相互理解を促進します。

(3) 外国人住民の地域参画の促進

- ・姫路市文化国際交流財団・外国人支援団体・自治会等の関係団体と連携し、地域での交流機会の充実や外国人の地域コミュニティ活動への参画を進め、日本人と外国人による協働の地域づくりを促進します。

(4) 外国人コミュニティのネットワークづくり促進

- ・在住外国人会議の開催や、外国人コミュニティ・関係団体等との連携・情報共有を通して、相互に協力し合えるネットワークづくりを促進します。

(5) 地域で暮らす外国人へのサポートの充実

- ・外国人住民が日本の習慣や住んでいる地域のルールに馴染み、安心して暮らすことができるよう、関係団体等によるサポートの充実を図ります。

戦略5 観光・文化・MICEによる都市魅力の発信

姫路市は、古くから播磨の政治・文化の中心地として栄え、**世界遺産姫路城**を中心に、歴史や文化、豊かな自然、多彩な農水産物等の地域資源を有しています。姫路・播磨のさまざまな魅力と世界における都市ブランド力の向上を図り、国内外から訪れたたくさんの人が、姫路城を入口に、暮らすように旅をする観光まちづくりを推進します。

施策

(1) 多角的な魅力発信による都市ブランド力の向上

・**世界遺産姫路城**を核に、**豊かな地域資源**のストーリー化、広域観光・周遊ルートづくりを進めるほか、**姫路国際音楽祭**をはじめとした文化芸術イベントの開催等を通して、姫路のさまざまな魅力を国内外に発信し、世界における都市ブランド力の向上を図ります。

(2) 世界から選ばれるコンベンション都市の実現

・**アクリエひめじ**を中心としたコンベンション機能を強化し、MICEやコンサートなどの多彩な催事を積極的に誘致します。

(3) スポーツを通じた国際交流の推進

・**ひめじスーパーアリーナ**を活用した各種国際大会や、大規模なスポーツイベントの開催・誘致を通して、大会参加者・観戦者の市内回遊や交流を促進します。

(4) インバウンド誘致促進

・多言語対応をはじめとした受入体制の充実や海外市場向けプロモーションの展開に取り組むとともに、**姫路城**を中心とした高付加価値プログラムや、クルーズ客船の誘致、日本文化体験等、多彩なツアー展開を推進し、インバウンドの誘致を促進します。

戦略6 姫路経済のグローバル化と産業活力の創出

姫路市はものづくり産業が集積する商工業都市として発展し、近年は、**播磨圏域連携中枢都市圏**をけん引する役割を担っています。今後も日本の産業を支える都市として成長を続けるため、産官学連携により、若者・外国人材の育成・確保や企業の海外展開、海外企業の誘致等を進めるとともに、国内外の人と企業から選ばれる産業ブランドの確立を目指します。

施策

(1) 企業の海外展開の促進

- ・播磨圏域内の中小企業の相談対応や海外展示会への出展サポート等の充実を図り、地元企業の海外進出や海外での販路拡大を促進します。

(2) 海外企業の誘致

- ・姫路市における立地の優位性を海外に向けて発信するなど、海外企業の誘致に向けた取組を官民協働で推進します。

(3) 世界水準の産業ブランドの確立

- ・**伝統産業の活性化**や**姫路の強みを活かした産業**の集積強化等を進め、世界から選ばれる産業ブランドの確立を目指します。

(4) 産官学連携による外国人材確保・定着の促進

- ・外国人留学生に向けた合同企業説明会や企業との交流機会等の充実を図り、企業の外国人材確保を支援するとともに、企業の受入体制整備や労働環境の改善を支援するなど、国の動向等も注視しながら、外国人労働者が働きやすい環境づくりを進めます。

(5) 高度外国人材の育成・確保

- ・教育機関、企業、経済団体等と連携し、海外展開や技術革新の変化に対応できる高度外国人材の育成・確保に努めます。

基本方針Ⅲ

国際交流の推進と世界における都市ブランド力の向上

戦略7 国際親善の深化と平和への貢献

グローバル化の進展や地球環境問題、国際情勢の不安定化等の様々な社会課題が存在する中、国際社会の一員として、世界の平和と発展に寄与することがますます重要になっています。姫路市がこれまで築いてきたパートナーシップを礎に、SDGs達成に向けた取組を促進するとともに、官民連携による国際協力・国際貢献を推進します。

施策

(1) 海外姉妹都市・姉妹城等との交流推進

・海外姉妹都市・姉妹城等をはじめとする海外諸都市と連携し、人材育成・観光・経済・文化等の多様な分野における交流事業を推進するとともに、これらのネットワークをより一層強化し、姫路の強み・魅力を広く世界に発信します。

(2) 国際協力の推進

・姫路市SDGs未来都市に関する各種取組を推進し、国際社会の持続的発展に貢献します。また、国際社会の課題解決に向けて、JICAをはじめとする国際機関等との連携・協力を進めます。

(3) 平和行政の推進

・「不戦の城・姫路城」や手柄山平和公園等を有する都市として、恒久平和への願いを世界に発信するとともに、平和首長会議の一員として、国内外の諸都市と連携した取組を推進します。

指標（KPI）

本戦略の推進による全体的な成果を評価するため、各基本方針においてKPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）を設定する。目標値は本戦略の計画期間の最終年度である令和13年度のものとする。

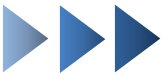
I

国際的な意識と
広い視野を持ち、
姫路の未来を拓
く人材の育成

・海外留学人数

現状値（令和7年度）

353人

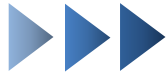


目標（令和13年度）

390人

・市内在学外国人留学生数
※1年以上のもの

585人



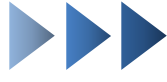
650人

II

多様性と包摂性
に富んだ暮らし
やすい多文化共
生社会の構築

・「親しくしている外国人がいる」と答えた
日本人の割合（市民アンケート結果）

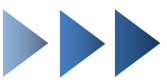
5.7%



10%

・「これからも姫路市に住みたい」と答えた
外国人の割合（市民アンケート結果）

60.2%



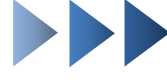
65.0%

III

国際交流の推進
と世界における
都市ブランド力
の向上

・姉妹都市等との交流事業数

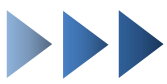
8回



10回

・姫路城の外国人入城者数（推計）

547,426人



600,000人

【参考】国際交流・連携の展開

海外姉妹都市・友好都市

主な交流：青少年相互派遣

交流方針：周年事業における公式訪問団の相互派遣のほか、青少年の派遣・受入れやオンラインによる交流等を通じて、市民間の交流を進める。

文化・芸術・経済・スポーツなど様々な分野での交流により、市民の相互理解と国際親善を図る。



・シャルルロア市(ベルギー王国)



・クリチバ市(ブラジル連邦共和国)



・フェニックス市(アメリカ合衆国)



・太原市(中華人民共和国)



・アデレード市(オーストラリア連邦)



・昌原市(大韓民国)

海外姉妹城・観光友好交流城

主な交流：観光・経済・文化・教育・平和等での交流

交流方針：姉妹城提携によるネットワークを活用し、観光・経済・文化・教育・平和等幅広い分野において各都市の特徴を生かした連携や交流を図ること、本市の国際的価値の向上に繋げる。



・シャンティイ城(フランス共和国)



・シェーンブルン宮殿(オーストリア共和国)



・コンウィ城(イギリス・ウェールズ)



・プラハ城(チェコ共和国)



・ヴァヴェル城(ポーランド共和国)



・ノイシュヴァンシュタイン城(ドイツ連邦共和国)

【参考】国際交流・連携の展開

海外連携協定都市等

主な交流：連携協定（MOU）に基づく人材育成・観光・経済などでの交流

交流方針：

【自治体との連携】

台北市とのMOUに基づき、人材育成に係る交流のほか、プロモーションの実施など観光分野での交流、地場産品の販路拡大などの交流を進める。

【教育機関との連携】

アメリカ合衆国のミネルバ大学とのMOUのほか、台湾の国立政治大学とひめじグローバル人材育成コンソーシアムとのMOUを活用し、フィールドワークや学生インターンシップの実施など、将来を担うグローバル人材の育成・交流や地域課題の解決に向けた取組を進める。

【文化施設との連携】

市立美術館とポーランド国立美術館「Manggha」やウェールズ国立博物館とのMOU締結をはじめ、今後も文化施設間での連携に取り組む。両地域の芸術文化の交流を促進し、観光、国際交流、教育、産業その他の関連分野における連携を図っていく。



「Manggha」



「ウェールズ国立博物館」

ひめじグローバル人材育成コンソーシアム等（民間との連携による取組）

主な交流：人材育成、人材確保

交流方針：産学官が連携し、地域経済を支えるグローバル人材を育成するほか、外国人留学生の受け入れ及び定着に向けた取組を行うなど多文化共生社会の実現に向けて取り組む。

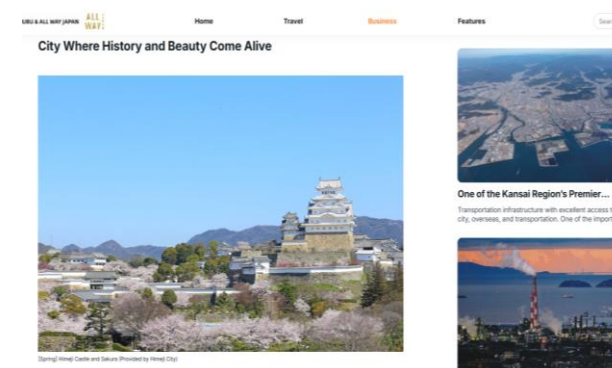
また、地元企業への海外人材の雇用促進や海外企業の誘致のほか、地域の活力維持のため、トップセールスなど新たな交流先の確保に向けた取組を進める。



「姫路グローバル高校生サミット & 海外の学びフェア」



「外国人留学生向け 合同企業説明会」



「海外企業誘致」



「国立政治大学とのMOU締結」

【参考】海外姉妹・友好都市と海外姉妹城

